

コンテンツツーリズム学会第2回研究大会発表論文募集

コンテンツツーリズム学会は、第2回研究大会を2014年11月30日(日)、法政大学大学院市ヶ谷田町校舎で開催いたします。研究発表の応募登録締切り、論文提出締切りをご確認いただき、ご準備をお願いいたします。

発表論文は、広く「コンテンツツーリズム」に関連した学問的研究であれば、研究方法・対象領域を問いません。発表に際し、来春発刊予定の『コンテンツツーリズム Vol.2』に掲載する研究発表論文を提出していただきます。

さまざまな立場からの、さまざまな学術分野からのアプローチによる研究論文を歓迎します。

【コンテンツツーリズム学会第2回研究大会概要】

1. 開催日時

2014年11月30日(日) 14:00~16:30(予定)

2. 開催会場

法政大学大学院市ヶ谷田町校舎5F会議室

3. 開催内容

基調講演：「観光立国実現とロケツーリズムについて」

観光庁観光地域振興部観光資源課 ニューツーリズム推進官 水口幸司氏

研究発表：発表者数名

*詳細につきましては後日HPで発表いたします。講演者については、変更になる場合があります。

【応募要領】

1. 趣旨

コンテンツツーリズムに関する、事例研究および理論的・実証的研究の成果を研究大会および『コンテンツツーリズム Vol.2』により広く内外に発信していき、コンテンツツーリズムの研究の深化、普及、地域活性化に寄与することを目的とします。

2. 応募資格

本学会の会員、または研究大会を機に学会に入会する者。

11月30日の研究発表会で本人が発表できる者。

研究者、大学生、大学院生、専門学校生、国・自治体職員、企業社員などの資格は問いません。

3. 応募上の制限

他学会、他誌との二重応募は禁止します。本研究大会で発表し本誌に掲載された論文等を他誌に投稿することは原則としてできません。

4. 論文原稿と研究発表

- (1) 論文は日本語とし、12,000字（本文、注釈、参考文献、図表を含む。A4、40×38、8ページ程度）を上限とします。『コンテンツツーリズム』投稿要領に基づいて執筆してください。
- (2) 研究発表は1人15分程度とします。パワーポイントによる発表をお願いします。

5. スケジュール

- 応募登録締切り : 2014年11月3日（月）
論文提出締切り : 2014年11月20日（木）※厳守
研究論文発表 : 2014年11月30日（日）※1人15分程度
査読審査 : 2014年11月～2015年2月
※2月末に査読結果を通知します。
査読の結果、一部修正を依頼する場合があります。
著者校正 : 2015年2月（1回のみ。誤字脱字の修正程度）
発行 : 2015年5月（予定）

6. 応募方法

- (1) 応募登録 : 締切り 2014年11月3日（月）
氏名、所属、連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)および「論文タイトル」を下記事務局宛メールにて応募ください。
- (2) 論文提出 : 締切り 2014年11月20日（木）
論文提出はEメールに限定します。下記事務局宛メールにて添付送信してください。
メール受信を持って受理日とします。
受理後、事務局より受領確認メールを送信します。
(確認メールが届かない場合は事務局に連絡してください)

【事務局】

メール : mail@contentstourism.com

7. 投稿論文の審査

- (1) 査読
投稿された原稿は、複数の査読者によって審査を行い掲載の可否を判定します。
- (2) 査読判定の区分
 - a) 投稿論文のまま掲載可。
 - b) 若干の修正のうえ再査読は不要で掲載可。
 - c) 修正のうえ再査読を条件として掲載可。また、再査読の結果、掲載不可もありうる。
 - d) 掲載の水準に達せず、掲載不可。

8. 著作権および著者の責任

掲載された論文等の著作権は、コンテンツツーリズム学会に帰属します。
他の出版物に掲載する場合は、本学会の承諾を得なければなりません。

ただし、掲載された論文等の内容についての責任は、すべて著者が負うものとします。

【投稿要領】

I. 原稿

1. ボリューム

12,000字（本文、注釈、参考文献、図表を含む。A4、40字×38行、8ページ程度）を上限とします。

5ページから8ページ程度が望ましい

2. 構成

- (1) 論文タイトル
- (2) 英文タイトル
- (3) 著者名
- (4) 英文著者名
- (5) 著者所属
- (6) 英文著者所属
- (7) 和文要約（800字以内）
- (8) 和文キーワード（5文字以内）
- (9) 本文
- (10) 文末脚注
- (11) 文末参考文献リスト

3. 書式等

- (1) 書式はワードプロセッサで、A4、40字×38行と設定。
- (2) 本文はMS明朝10.5ポイント、タイトルはMSゴシック。
- (3) 図表は原則として1点あたり400字換算とする。

II. 表記

1. 文章表記

- (1) 文章は原則として、当用漢字、現代かなづかいを使用し、横書きとする。句読点は、「、。」を使用する（「, .」は使用しない）。
- (2) 外国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ書きとする。
- (3) 外来語、現地の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ書き（全角）とする（中国を除く）。ただし、パーセントは記号（%）を使用し、図表では一般的な単位は記号（m、g、t、haなど）を使用する。
- (4) 数字は、原則として算用数字を使用する。ただし万以上の数字には万、億、兆を用いる。なお、継続を示す場合は～を使用する。

（例）3億500万円、2008～13年

2. 項目の区分と表記

大項目 : I、II、…… (節に相当)

中項目 : 1、2、…… (項に相当)

小項目 : (1)、(2)、……3

列挙項目 : 1)、2)、……

3. 図表の表記

(1) それぞれ通し番号を付し表題をつける。必ず単位、出所を明記する。

(2) 表について注記が必要な場合には、出所を示したあとにつづける。

4. 注の表記と位置

注記は通し番号 1) 2)……を付し、文末脚注にする。

5. 引用の表記

本文中または注において引用箇所を表記する場合、章末に参考文献を一括配列 (邦文文献は五十音順、外国語文献ではアルファベット順) にしたものに基つき次のようにする。

(1) 参照を示す場合 :

(例) 増淵 (2010) によると……

(2) 引用頁を示す場合 :

(例) ……」と述べている (増淵 2010、P.42)。

6. 参考文献の表記

(1) 参考文献は文末に一括して掲示し、その配列は次のとおりとする。

邦文文献の場合は五十音順、外国文献の場合はアルファベット順。

同一筆者で、発表年次が同年の場合は、著者名(2010a)、著者名(2010b)のように区別する。

(2) 参考文献の表記については、次のとおりとする。

1) 邦文文献

原則として、論文名は一重括弧「」、単行本名・雑誌名・新聞名等は二重括弧『』とする。

単行書 : 著者名(西暦)『書名』(シリーズ名) 出版社

(例) 増淵敏之(2010)『欲望の音楽—「趣味」の産業化プロセス』法政大学出版局

雑誌論文 : 執筆者名(西暦)「論文名」『雑誌名』巻号、出版社

2) 外国文献

著者名は原則として姓名を倒置する。

原則として、論文名は一重引用符「 ’ ’」、単行本名・雑誌名・新聞名等はイタリックとする。

単行本 : 著者名(西暦), 書名(イタリック), 版次, 出版地, 出版社.

雑誌論文 : 執筆者名(西暦), ‘論文名’, 雑誌名(イタリック), 巻号,出版社

以上